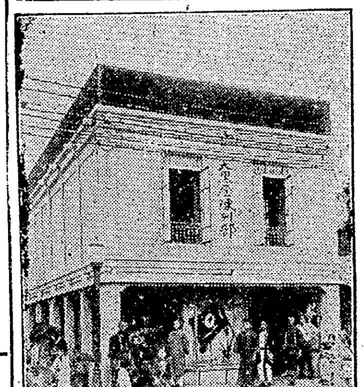
看護婦派出の求めに應ず
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

ヤマシタ　レ　ガ訪　秋
帽　打鳥・折中　ノ型　新
タ　シ　マ　シ荷　入　澤　山　モ　帽　供　子
四丁目　ヤ　ルツ

平町紺屋町（縣社通り）
御評判
イワキ食堂
はやくしろまる
オの部電話四六〇番

ミシン
現金月賦販賣
平町壹丁目
ミシン會社支店
社員採用
ハガキ申込メ

全
清酒　鶴仙
釀造元
石城郡平窪村
松吉屋本店
電話二四一番



元氣ある店に人集る
拾五歲以下の少年店員を募ります。よく將來を考へ他日立派な商人たらんとする方はお申出でを――。
店の組織（卸部―三丁目十五番地 小賣部―三丁目角（平銀行前））
卸部にて外交的手腕を養ひ、小賣部にて販賣仕入に熟達せしむ
――（優遇の途あり、詳細面談）――
小間物化粧品商 大黑屋商店
平町三丁目（電話長一一六）

地所埋立請負
弊社南町裏ニ土砂運搬軌道敷設中ノ處今般竣工事業開始致候ニ付全方面一般ノ地所埋立請負仕候間多少ニ拘ハズ御用命相願候
平町字四町目二番地
工榮商會

洋食店讓り度し
平町目拔の場所、居拔きの儘にて格安御相談に應ず
姓名在社

人事信用資産一般調査探偵及代金取立
興信日報發行・全國海外調査聯絡
帝國興信所
平通信部
平町白銀町十五

外科
專門
入院應需
上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

豫て有名なる濱口熊嶽先生は十四日より平町平劇場に於て毎日午前六時より同九時迄四倉町は十六日より海盛座に於て毎日午前九時同十時二ケ所掛持にて一般患者の施術の需に應じます（時間勵行）
濱口熊嶽師施術所

磐城病院
（內科小兒科）（外科泌尿科）（婦人科皮梅科）
院長 東北醫學士 市原卯太郎
東北醫學士 市原陸郎
日本醫學士 日高忠男
平町田町（電話二一四番）

第二病室增設
高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平町田町電話五一三番

今秋流行の
セール　セル　ネル
珍柄物豐富に着荷いたしました、是非御來觀御用命の程を
三井吳服店
平町三丁目
電話三十八番

美術表具
玉成堂
平町田町
元平陽女學校跡

體溫器 寒暖計 羅針
關內藥局
電四〇番

常磐毎日新聞

日刊
發行兼編輯人 川崎文治
印刷人
本社ト同番地
印刷所 常磐毎日印刷所（電話六三〇番）

定價 一部金貳錢 一ヶ月卅錢 郵稅五厘
廣告料 五號十二字詰一行五十錢
休刊日 日曜大祭祝日ノ翌日
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所 常磐毎日新聞社
電話六三〇番

九月二十二日夕刊

寄書

地方青年に望む（三）

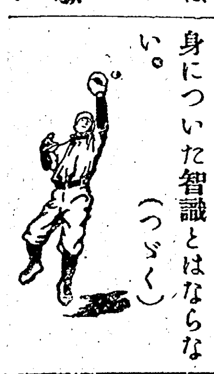
吉澤佐嘉英

現代日本の青年は此のまゝ新らしい事實を何んと見てゐるであらうか。

レニンの配下たらんとする不心得の青年が地方に一人でも居る間は圓滿なる村落を創り希望ある青年團は設立されないのである。もし諸君の內に其の毒に醉へる者あらば速かに青年は團結して毒を吐かしめよ。これこそ純眞なる現以青年の任務であるのである。周圍には必ず日本人たる精神を失ひユデマ人の精神となりしましてゐる人必ずあるであらう、鄕里を明かるく輝せよ。

そうして窮迫と悲慘とを輕減するためにはレニンの革命に習はずとも吾人の獨立獨行の精神で熱き友情と厚き愛の結合を以て鄕里團結し心を大磐石の如くし氣分を旭日の如く勇ましく大自然の裕かなる心に進んでゆかれんことを望むのである更に一言する勞働を厭ふ青年に（筋肉勞働）勞働を伴はない智識は空な智識となつて活きて働く力を有たないのである。故に實際に体驗のない勞働云々などゝ云ふ學說は問題にならないのであるから徒らに他人の書籍によつて自己の体驗を棄てゝまで他人の說を信ずる必要はないのである。体驗の伴はない智識は本當の意味での智識と稱すべきものではない。たゞ本を讀んで得ただけのものは活きて働く生命を持たない。たゞ本を讀み學校へ通ふ事が智識の根元でない、一方に勞働、勞役といふことをするでなければ其の學問なり研究が身についた智識とはならない。

（つゞく）



若き血は燃ゆ 榮ある出場選手

各郡市からの出場者決定 待たるゝ廿四日

若き血は燃える、待ちに待たれた第三回縣下各郡市聯合青年團体育大會は愈々明後二十四日に迫つた、平町高月臺上の磐中校庭は撰ばれたこれ等縣下三百の健兒の雄叫びでそのフィルドを飾られるであらう、猛烈なる幾回の練習後、最後の榮ある出場選手として各郡市より選抜決定した、輝かしの闘士の顔ぶれは左の如くである、待たるゝは廿四日の午前八時かな

百米

八子健一郎（耶麻）吉田安世（信夫）菅澤重吉（福島）鈴木源吉（若松）渡邊肇（郡山）丹忠義（石城）半澤善一（安達）大堀政雄（北會）川村幸夫（安積）菅野永（伊達）熊田文衛（田村）小林兵衛（双葉）新井田喜左久（河沼）五十嵐利弘（大沼）我妻久光（石川）小林貞一（岩瀬）圓谷幸壯（東白）島田喜一（相馬）

四百米

早川鶴松（相馬）下主武男（東白）伊鶴覺慧（岩瀬）石井亨（石川）鈴木武雄（大沼）中村政（河沼）田代伊助（双葉）赤沼慶五郎（田村）安齋金一郎（伊達）熊坂閑（安積）一條傳美（北會）半澤喜一（安達）齋藤安之丞（石城）岩原金三郎（郡山）田村吉三（若松）安食信三郎（福島）伊藤彌次右工門（信夫）服部義馬（耶麻）

千五百米

遠藤愼一（耶麻）菊池好美（信夫）岡田秀雄（福島）風間久七（若松）岩原金三郎（郡山）星野喜一（石城）金丸常七（安達）山中喜代市（北會）作田實（安積）伊東芳治（伊達）藤井文彌（田村）猪狩留次郎（双葉）舟木清一（河沼）風間留吉（大沼）鈴木今朝吉（石川）添田幸三（岩瀬）芳賀翁（東白）寺島清（相馬）

一萬米

遠藤武治工門（相馬）本田政信（東白）蕪木喜一郎（岩瀬）高橋淺之丞（西白）猪俣正松（大沼）長谷川弘（河沼）中目要（双葉）鴫原盛治（田村）佐藤榮（伊達）伊藤淸明（安積）石井茂（北會）大澤秋義（安達）永山儀（石城）影山惣七（郡山）佐藤喜一（若松）尾形五郎（福島）野地政之助（信夫）大關藤一（耶麻）

走幅跳

只浦才八（耶麻）阿部信（信夫）渡邊慶藏（福島）櫻井豊吉（若松）永井惣太郎（郡山）花澤輝一（石城）安齋寅治（安達）渡邊傘吉（北會）大山勤（安積）秋葉武夫（伊達）今泉長吉（田村）熊田繁雄（双葉）宮前辰之助「河沼」本郷芳雄（大沼）大槻喜久雄（石川）渡邊允（岩瀬）富永富壽（東白）持舘泰（相馬）

走高跳

持舘泰（相馬）芳賀辰男（東白）小林貞藏（岩瀬）吉田寅治（石川）高城佐吉（大沼）佐藤哲夫（河沼）栗木靜榮（双葉）佐藤馬男（田村）鈴木惣三郎（伊達）土生光雄（安積）長田正成（北會）渡邊重太「安達」花澤輝一「石城」永井惣太郎「郡山」風間久七「若松」渡邊武夫「福島」加藤淸五郎「信夫」只浦才八「耶麻」

砲丸投

八子健一郎「耶麻」富田德四郎「信夫」淸野實「福島」飯澤勇「若松」黑澤又佐「郡山」鈴木左馬太「石城」菅野淺之助「安積」手代木儀四郎「北會」七海甲男「安積」紺野勇治「伊達」馬場三郎「田村」鈴木英一「双葉」猪俣三郎「河沼」猪俣正「大沼」山田留重「石川」溝井義一「岩瀬」佐藤忠三郎「東白」一條貞助「相馬」

八百米リレー

佐藤諭、島田喜一、加藤始、門馬宏「相馬」金澤茂田村榮、甲賀文男、白坂近直「東白」溝井義一、小林貞一、伊鶴覺慧、渡邊允「岩瀬」我妻久光、鈴木茂、圓谷泰胤「石川」五十嵐利弘、村松正美、木村紅旗、鈴木武雄「大沼」國分操、加藤文彌、新井田喜左久、井上一平「河沼」小林兵衛、横山深三、河原武、林勇紀「双葉」熊田文衛、吉田英治、宍戸一己、今泉甚吉「田村」金田正志、菅野永、紺野勇治森次郎「伊達」川村幸夫、鈴木政久、新山定次、七海甲男「安積」大堀政雄、武藤宗、石井亘、白岩誠喜「北會」半澤喜一、野村彌一、山本信一、渡邊寅松「安達」小野直千賀、吉田豊吉、小松輝嘉、齋藤安之丞「石城」渡邊肇、國分千里、柵木透「郡山」鈴木源吉、齋藤輝雄、栗田久四郎、佐藤織廣「若松」安倉信三郎、菅澤重吉、渡邊慶藏、北條文太郎「福島」吉田安世安部信、樋口義市、尾形良三「信夫」古川睦男、古山彥次郎、只浦才八、古山武彥「耶麻」

劍道

八子進、小枝損進「耶麻」菊田毅、阿部幸一郎「信夫」菅野祥四郎、菅野謙二「福島」山際榮藏、長谷川淸治「若松」伊藤榮一、柳沼正「郡山」藁谷久太郎大谷末雄「石城」三瓶冬信松原庄重「安達」宍澤寅義二瓶喜一「北會」松本龜一長島民惠「安積」赤井淸治佐藤進「伊達」角田榮一、七草木久喜「田村」猪狩馨石田理宗「双葉」淸野芳郎高久義雄「河沼」佐藤勇、上野榮「大沼」上遠野今朝美、圓谷誓「石川」森義夫君島和衛「岩瀬」滑川利夫綠川盛義「東白」只野正光加藤正雄「相馬」

柔道

星深、長尾春道「相馬」鈴木克己「東白」鈴木庄吉、渡邊平治「岩瀬」迎義次「石川」小柴義光、眞部淸義「大沼」齋藤初四郎、成田光喜「河沼」山田光政、井戸川實「双葉」關內甚平片寄秀土「石城」根本重作遠藤光司「安達」田邊熊次郎、宗川昇「伊達」渡邊庄治右工門、武藤廣治（田村）藤田保、村上俊吾（福島）不破善壽（若松）淺野彌生、高野豐勝（信夫）

相撲

三浦幸作、尾形周藏（信夫）庄司秀壽、今井武四郎（若松）木村桂助、佐々木安太郎（福島）佐藤忠吾國分寬（田村）大野利秋、田邊熊次郎（伊達）鈴木秋衛、佐藤彌一（安積）水谷義雄、國田幸八（相馬）近藤松五郎、沼田惣一（東白）白岩一雄、遠藤重義（北會）池田藤一、深谷榮

体育大會 準備打合せ 本日磐中にて

芳賀本縣体育主事は昨日來平本日午後二時より磐城中學校講堂に縣下靑年体育大會當日の各係員に參集を求め準備打合せを爲す由因に平靑年團にては右の打合せ終つて後午後五時より藤田榮助方に總務會を開き當日の參觀人に配附すべき運動タイムス發刊の件、其他各係りとの連絡を執るべき方針に關する協議を爲すと尚各郡代表選手は明日續々來平すべき爲め平驛前に大天幕張りの臨時受付所を設け宿舍の案內其他萬端遺漏なきを期し白銀町靑年分團にては驛前に大アーチを建設すると

子供を連れて 妻女は何處に 行衛が不明

石城郡內郷村磐城炭礦坑夫橘貞助妻タメ（四二）は去る廿一日子供サダ（一〇）武光（四）の二人を連れ買物に行くと稱し家出した儘行衛不明となつた爲め貞助は方々探したが發見出來ず本日平署に搜索方願出た

天氣豫報（廿三日）南東の風 曇り

昨夜の名月 にくや雲奴が

◇月月に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月◇

昨夜は仲秋の明月で、舊歷の即ち『月みる月』の宵であつた俗に此のあたりでは豆明月ともいひ、古來から各家戶にすゝき野菊あるひは季節の果物、月見だんごなどを供へてお月樣に捧げる、また文人墨客は一瓢を肩に月見と洒落るのだが會憎昨夜は曇でお月樣の顏は見られなかつた

晩秋蠶反動安

四倉町方面の晩秋繭は夏秋繭に引つゞき出廻り八萬貫の出荷を豫想されてゐるが例年なれば相當の高値を呼ぶ晩秋繭も本年は最高八十圓買馴七十七八圓を見られてゐる之は春繭が極端の高値を唱へた爲め其反動と云はれてゐる

露商組合長の 暴行罪公判 廿八日開廷

平町南町福島毎日新聞記者村上榮氏を訪れ意見の衝突を來し同氏を毆打した平町三丁目常磐露商組合長高倉精一氏に關する暴行罪の公判は廿八日平區裁判にて小野村判事係り小泉檢事立會千葉、門傳、眞木の三辯護士列席の上開廷さる

地藏尊發掘 川部靑年團が

石城郡川部村沼部江筋堤に最近夜な〳〵石地像の形が現れると云ふので沼部靑年團がその場所を發掘した處地下數尺の處から六體地藏尊と刻まれた三百貫餘の碑を發見し同地に建碑し祀つた處諸病に靈驗あらたかであるとて遠近から參拜者が絕ねない

竹の湯で盜る

平町南町竹の湯方で廿一日午後七時頃入浴中の客が着物を盜まれたので平署刑事活動中

ラジウム踏倒

東京市神田區小川町正木信市（二八）は去る十六日から平町舊城跡ラヂウム旅館に投宿し十九日江名に行くとて宿泊料十一圓六十錢を踏み倒して逃走平署に告訴さる

滿鮮の旅から

――（第二信）――

船中にて　曾我直治

汽車は平均五〇、六九キロの速度で走つて十時十分下關着、手提かばんは赤帽によつて直ちに連絡船の福壽丸に運ばれた、三千六百噸の二等室所謂大船に乘つた心持ち、疲れた一行は翌朝六時迄一睡の夢、六時十二分遙か東方に海中の日の出を拜む（廿日）

夜の町を步む 擧動不審の男

廿一日午後十一時半頃平町南町附近を徘徊する擧動不審の男があるので平署川上刑事が引ツ捕へ取調べた處山形縣西村山郡生れ當時住所不定土工山田兼三郎（四四）と稱し各地で窃盜を働いた形跡あり平署に拘留して取調中

平町人事

▲出生 △三丁目三八 江尻直次氏二男浩 △四軒町二八 荒川補一氏二男利久 △鐵道官舍一〇 野口留五郎氏五男孝

▲死亡 △田町六〇 安中忠一（一七）

▲婚姻 △栃木縣鹽谷郡內家町守田實氏（二八）新町四三吉田ヒサ（二二）